

ポーランドポスターの研究 (2):  
ヴィラヌフ・ポスター美術館について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松浦, 昇 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/42530">http://hdl.handle.net/2297/42530</a>

## ポーランドポスターの研究 (2)

### ——ヴィラヌフ・ポスター美術館について——

松 浦 昇

#### A Study on Polish Posters (2)

#### —— Poster Museum in Wilańów ——

Noboru MATSUURA

#### はじめに

今年(1991年)の6月、ワルシャワは、3年前には予想もできなかった光景を現出している。文化・教育・医療を切り捨て、経済復興を願う現ポーランド政府の思いが、熱く伝わってくる。例えば、スターリンが1952年にポーランド政府に贈呈した文化科学宮殿の1階に服飾専門店が出店し、また、文化科学宮殿周辺の広場には、青空市場が埋めつくしている光景(図1)である。インフレも昨年よりひどくなっているが、ポーランド市民は、過渡期の現象と割り切って耐えているようにみえる。昨年は10万ズウォティ紙幣で驚いたが、今年は50万ズウォティ紙幣を手にして、インフレを実感した。そして、コココーラ

の看板が、メインストリートに登場したのを見て、まさにポーランド政府の眼が、期待が、アメリカに向いている事を感じた。

アーティストやデザイナーは、ポスターの注文がなく困っている。注文があっても紙がない。

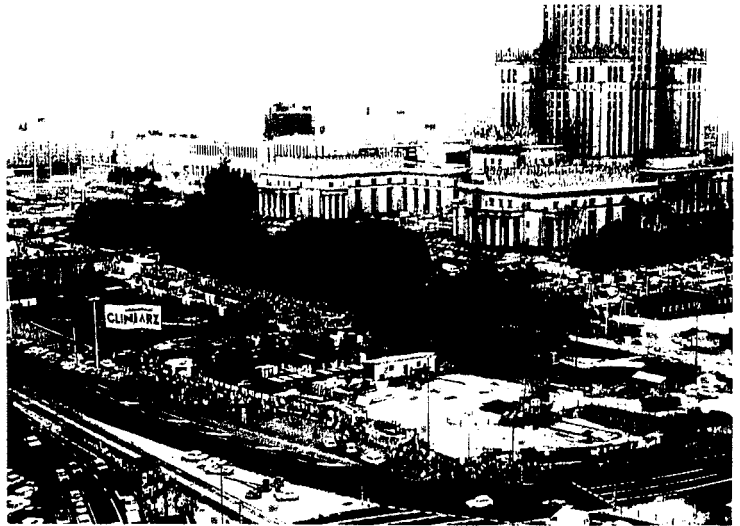


図1 青空市場。後方の建物が文化科学宮殿。

今までポスターを注文していたクライアント一映画会社、劇場、サーカス、コンサートホール等は、政府の援助を打ち切られたため、制作や上演、演奏ができない。例えば、今まで4ドル程度で観賞することができた一流のオペラや演奏が、観賞できなくなった。

ポーランドポスターは、文化ポスターが主流を示め、映画、音楽、オペラ、演劇、サーカス等の文化を、ポーランド市民は誇りに思っていたのである。その文化が切り捨てられようとしている。仕方がないと割り切ってしまうとそれで済むが、1966年から始まった、世界で最も伝統のあるワルシャワ国際ポスタービエンナーレの運営に影響がでていると聞いて、割り切れない思いを抱いている。今年、ワルシャワを訪れて、ポスタービエンナーレの組織委員会委員長のヴァルデマル・シュヴィエジ氏や組織委員でワルシャワ美術アカデミーのヴィチョレック教授、ヴィラヌフ・ポスター美術館の前館長で、現在、顧問をしているヤニナ・フィヤウコフスカ女史らにお会いした時に、まず、ポスタービエンナーレの窮状についての説明を聞かされることになった。そして、具体的な援助の協力要

請があって困ったが、ポスタービエンナーレを中止させる訳にはいかないので、微力ながら協力する旨を伝えた。

日本のポスターが、国際的に評価を受ける契機となったのは、このワルシャワ国際ポスタービエンナーレと言っても過言ではない。1966年の第1回ワルシャワ国際ポスタービエンナーレでは、日本の永井一正、田中博尚氏が、金賞を受賞し、昨年の第13回ワルシャワ国際ポスタービエンナーレでは、矢萩喜徳郎氏が、金賞を受賞した。このように、今日まで多くの受賞者を、日本から出している。このビエンナーレがなければ、日本のグラフィック・デザインの隆盛一特に、ポスターの隆盛はなかったかもしれないし、ポスターが現代芸術のひとつとして、国やイデオロギーを越えて世界のひとびとから受け入れられることが遅れたかもしれない。だから、継続して欲しいと願っているのは、私ひとりだけではない。

ヴィラヌフ・ポスター美術館を訪れた時、丁度、『ポーランドポスターの変質・1966—1972』展（図2）が開催されていた。ポーランドポスターにとって黄金期といえる頃の作品展で、非

常に感動した。このように、自国のポスター史を大系的にまとめ、研究している美術館は少ない。私の知る範囲では、バリにあるポスター・広告美術館ぐらいである。ヴィラヌフ・ポスター美術館は、ポーランドポスター発展のための貢献は勿論、世界のポスター芸術啓蒙活動にも、多大な貢献をしている。ポーランドポスターを研究する場合だけでなく、日本のポスターを研究する場合も、これからはヴィラヌフ・ポスター美術館に向かなければならない。今回は、このヴィラヌフ・ポスター



図2 「ポーランドポスターの変質・1966—1972」展

美術館について紹介したいと思う。

### ヴィラヌフ・ポスター美術館について

今日のポーランドポスター芸術の発展に貢献した要因のひとつとして、1968年6月4日に開設された、ヴィラヌフ・ポスター美術館(図3)の活動が挙げられる。ポスター美術館は、ワルシャワ郊外のヴィラヌフ宮殿の敷地内にある。ヴィラヌフ宮殿は、ポーランドの「ベルサイユ宮殿」とも呼ばれ、17世紀末のポーランド国王ヤン・ソビエスキIII世の夏の離宮として建てられたもので、今日では歴史的絵画を収集した博物館として、フランス式庭園とともにワルシャワ市民の憩い



図4 前ヴィラヌフ・ポスター美術館館長・ヤニナ・フィヤウコフスカ女史



図3 ヴィラヌフ・ポスター美術館

の場所となっている。

ヴィラヌフ・ポスター美術館は、世界で最初のポスター専門の美術館である。

1961年、ワルシャワ国立美術館の責任者であるスタニスワフ・ロレンツ Stanisław Lorentz 教授は、美術館における現代美術のセクションの中に、ポスター部門を設置することを決め、ヴィラヌフ地区にそのための専用の美術館を創設することを命じた。そして、その担当者にヤニナ・フィヤウコフスカ Janina Fijałkowska 女史(図4)が任命され、その後、彼女がヴィラヌフ・ポスター美術館の創設者として、組織者として、ポスター部門を指揮・指導してゆく立場に立った。

ポスター美術館の用地として、馬術練習所が充てられた。馬術練習所は、19世紀中頃、フランシスコ・マリア・ランチ Francisco Maria Lanciによって設計された歴史的な建物である。馬術練習所の建物を生かすことを前提に、ヤチェク・チゼック Jacek Cydzik とハリナ・コシュュー Halina Kossuth の両建築家によって、ポスター美術館の建築プロジェクトは進められた。馬術練習所の歴史的な建物には、新しい展



図5 ポスターを保管している倉庫の内部

示室と科学的な作業のための部屋、そして、フィルムやスライドを投影できる小ホールで構成され、新しく増築された建物には、ポスターコレクションのための倉庫（図5）やポスターを科学的に研究するための作業室、写真撮影のための作業室、そして、ポスターを管理するための部屋で構成されている。このポスター美術館の建物が完成するまでに20か月かかった。

ポスター部門の最初の活動は、第2次世界大戦とワルシャワ蜂起から免れたワルシャワ国立美術館がコレクションしている500枚のポーランドポスターの整理と研究であった。この時から、ポーランド国内や国外における展覧会やコンクールのために、収集されているポーランドポスターのすべてに、そのアーティストやデザイナーの伝記、経歴を記すようになった。その同じ時期に、ワルシャワにおける歴史的記念物保存のための国家的事業は、ポスターの保存期間を2倍にする方法や、ポスターの新しい展示方法、また、保管方法の研究を発展させることになった。そして、1963年6月24日、カジミエシュ・ルシネク Kazimierz Rusinek 次官や著名なアーティスト、ジャーナリスト、美術評論

家などが出席して、ヴィラヌフ宮殿のホワイトホールで記者会見が行われた。それはアムステルダムのアステリック美術館の研究方法を参考にしたポスターの保管方法について、また、ポスターの保存期間を2倍にする新しい方法についての会見であった。

1965年、ポスター部門は、ヤニナ・フィヤウコフスカ女史がポスター美術館のビジョンと、その具体的活動を明らかにし、国立美術館から独立することになった。

1965年6月13日、ワルシャワ国立美術館の一室で、

第1回ワルシャワ国際ポスタービエンナーレについての発表があった。そして、新しく独立するポスター部門が、『若いポーランドの時代から今日まで』というタイトルの、ポーランドポスターの歴史を展望する、初めての大きな展覧会開催についての説明があった。それは、19世紀末から今日までの美術的に価値があるポーランドポスターの展覧会で、ポーランドやチェコスロバキア、ソ連のコレクションで構成されていた。また、当日にポスター美術館の土台石が埋められ、ポスター美術館が正式に1968年の第2回ワルシャワ国際ポスタービエンナーレが開催される時、つまり、ポスタービエンナーレに2年遅れてオープンすることが発表された。

ポスター美術館は、精力的に、まず、現代において人気があり著名なポスターのコレクションを始めた。そして、社会的に認められた歴史的なポーランドポスターも努力して収集を始めた。最初の個人的な寄贈者は、ポーランドポスターデザイナーでは、ミエチスワフ・ベルマン Mieczysław Berman, タデウシュ・グロノフスキ Tadeusz Gronowski, ヴィトルド・チョミッチ Witold Chomicz, ロマン・チシレ

ヴィッチ Roman Ciestewicz, ヴィクトル・ゴルカ Wiktor Górka, スタニスワフ・ミエズア・トマシェフスキ Stanisław Miedza Tomaszewski, ヨゼフ・ムロシュチャク Józef Mroszczak, ヤン・ムチャルスキ Jan Mucharski, コンスタンティ・マリア・ソポクコ Konstancy Maria Sopoćko, イグナシ・ヴィツ Ignacy Witz, そして、美術史家であり、美術評論家のヤン・ビアオストクキ Jan Białostocki やサイモン・ボイコ Szymon Bojko, 著名なコレクターであるアレクサンダー・フェリスタック Aleksander Felistak などである。彼らは、特別に美術的な価値をもったポスターや、歴史的に価値のあるポスターを、美術館に寄贈した。

ワルシャワ映画賃貸本社は、1948年から1962年までの数百のポーランドポスターを美術館に寄贈した。戦後、ポーランド人民の存在を示す最初の10年間に出版されたポスターは、美術館のコレクションの内容を豊富にした。

年月の経過によって、美術館は着実に、国内や海外からポスターを収集していった。1930年代の非常に貴重なポーランド映画ポスターや、展覧会、広告ポスターを寄贈したのは、シカゴに住む彫刻家のジョン・ファビオン John Fabion である。ロンドンで活躍している画家のマレク・ジュワブスキ Marek Żuławski からは、1939年から1945年にかけてポーランドやイギリス、イタリアにおけるファシズムに対する闘争に使われたポスターやチラシの寄贈があった。特筆すべき寄贈は、ワルシャワ国際ポスタービエンナーレの荣誉ある受賞者24名からの最も素晴らしい作品、2,000点のポスターである。これは、1968年から1986年の間に、ビエンナーレの金賞受賞者が、ヴィラヌフ・ポスター美術館で開催された展覧会に出品したポスターである。また、日本の伝統的なグラフィック・アートにおける形態を、見事に活用しているポスターデザイナー、黒田征太郎から、1974年から1986年にかけて制作した、136点のポスターの寄贈があった。

自発的なアーティストや個人、団体等の協力によって、1968年から1988年の20年間に、ポスター美術館に13,000点のポスターの寄贈があった。コレクション数が増えたことによって、ポスター美術館は、ポーランド国内や国外の美術館、コレクターとポスターの交換を始め、それによって歴史的なポーランドポスターのコレクションや、海外のポスター研究を可能にした。そして、ポスター美術館にとって大変、重要なことは、ワルシャワ国際ポスタービエンナーレからの継続したポスターの寄贈である。(ワルシャワ国際ポスタービエンナーレの会場は、ザヘンタ美術館で、ワルシャワ市内にある。)その結果、19世紀末から今日までのポスター、およそ50,000点コレクションするまでになった。その中には、著名なアーティストによって創作されたポスターがあり、美術館はそれを誇りに思っている。例えばポーランドを代表するアーティスト、スタニスワフ・ヴィスピアンスキ Stanisław Wyspiański が、1899年に制作したメーテルリンクの演劇ポスター『内面』、フランスのアーティスト、ユージン・グラッセ Eugène Grasset が、1887年に制作した『ロマンティックな図書館』、そして、レオナート・カピエロ Leonette Cappiello, ヤン・カール Jean Carlu, ポスターの父・ジュール・シェレ Jules Chéret, カッサンドル Cassandre, レイモンド・サビニャック Raymond Savignac, ヤン・ミッシェル・フォロン Jean Michel Folon などの有名なポスター、また、ピカソの平和ポスター9点などを所有している。しかし、大系的にコレクションしているのはポーランドポスターであり、1892年から今日までのポスターを所有し、その中でも、ポーランドポスター学校のクリエイターたちの寄贈は、ポスター史上、重要な意味をもっている。ポーランドポスター学校のメンバーは、ヘンリク・トマシェフスキ Henryk Tomaszewski, ヨゼフ・ムロシュチャク Józef Mroszczak, ヴォイチエフ・ザメチニク Wojciech Zameznik, ヤン・ムウォドゼニエツ Jan

Młodożeniec, ヴィクトル・ゴルカ Wiktor Górka, ヴァルデマル・シュヴィエジ Waldemar Świerzy, ヤン・レニツァ Jan Lenica, そして、フランチシェク・スタロヴェイスキ Franciszek Starowieyskiである。彼らの輝かしい活動は、1956年から1963年にかけて、ポーランドポスターの新しいスタイルの結晶となって、数千のポスターを生み出した。彼らによってポスター芸術は多面的に捉えられ、表現における自由さと多様さは、広い人間的な見通しに立って直接的な実用性を超

越し、具体的なメッセージばかりでなく幅広い普遍的な内容をもたらした。彼らのポスターの中で、特に重要と考えられるものは、トマシェフスキの『ヘンリー・ムーア彫刻展』、『オディプス王』、ヤン・レニツァの『フェドラ』、『老婦人の訪門』、スタロヴェイスキの『天使、パピロ

ンに下降する』、『フランク5世』などである。

1968年6月4日、ポスター美術館開設記念行事として、第1回ワルシャワ国際ポスタービエンナーレの栄誉ある金賞受賞者、ヤン・レニツァ、永井一正、田中博の作品展が開催された。その後、ポスター美術館のホール（展示室）で

国際ポスタービエンナーレの会期中に、前回のポスタービエンナーレの金賞受賞者の展覧会が継続して開催されることになり、ポスター美術館は最も素晴らしい世界のポスターデザイナーの作品紹介の場所となった。

1988年までに、フィンランド、フランス、日本、西ドイツ、ポーランド、東ドイツ、アメリカ、スイス、イタリアの30名の金賞受賞者は、美術館ですでに展覧会を開催している。1990年、第13回ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ（図6）の会期中、ポ



図6 第13回ワルシャワ国際ポスタービエンナーレの会場風景



図7 エssen・ドイツポスター美術館

スター美術館では、前回の金賞受賞者、ヘンリク・トマシュフスキ、松永真、青葉益輝の作品展が開催された。栄誉ある展覧会に加えて、美術館はポーランドポスターの歴史や、海外のポスターの歴史についての展覧会も始めた。これはポスター美術館自身のコレクションだけでなく、ニューヨーク近代美術館やパリ・装飾美術館、パリ・ポスター・広告美術館、エッセンのドイツポスター美術館(図7)、ブダペストのムカサルノク、ブルノのモラビアン・ギャラリー、プラチスラバのナロドニ・ギャラリーなどのよく知られた美術館やギャラリーの協力によって可能になった。特にポーランドポスターの歴史に関する展覧会『ポーランドポスターの伝統・1898—1969』、『ポーランドポスターにおける発想と形態・1892—1944』、『ポーランドポスターにおける内容と形態・1944—1955』、『ポーランドポスターの変質・1944—1984』などは、アーティスト、デザイナーの表現スタイルの発展を示すことに非常に成功した。

また、美術館は、政治ポスター、国際反ファシズムポスター、広告、スポーツと旅行のポスター、交通安全のポスター等、特別なテーマを設定して展覧会を開催している。ポスター以外にも“サイン”を総合的に捉えた展覧会を開催している。

1988年までに、オーストリア、西ベルリン、フランス、スペイン、メキシコ、西ドイツ、東ドイツ、アメリカ、スイス、ハンガリー、イギリス、イタリア、ソ連の国々でも、ポーランドポスターの展覧会を開催している。これらのすべての展覧会において、もっともすぐれたポーランドのアーティスト、デザイナーによってデザインされたカタログやポスターが、計画的に準

備されている。また、展覧会の展示も、よく知られたアーティストやインテリアデザイナーの提案が生かされている。

ポーランドポスター芸術の歴史や、そのヨーロッパ美術・文化との関係を調査、研究するために、美術館は特に、写真資料収集に力を入れ、それが手助けとなっている。

美術館は、展覧会ばかりでなく、現代文化センターとして、映画や講演、現代音楽のコンサートも開催している。

ヴィラヌフ・ポスター美術館は、1983年、今までのポスター芸術の啓蒙活動に対し、西ドイツのデュッセルドル市の団体から、栄誉ある、エルンスト・リトファス賞を受賞した。(エルンスト・リトファスとは、広告塔を発明し、都市の景観に貢献した人物である。)

#### おわりに

今年、第9回ラハティ国際ポスタービエンナーレ(図8)が、6月15日から開催され、前日のオープニングセレモニーから出席した。ラハティ市は、ヘルシンキから北へ列車で1時間半ぐらいのところにある小さな町である。会場は、ラハティ美術館で、その中にポスター美術



図8 第9回ラハティ国際ポスタービエンナーレの会場風景

館が入っている。ラハティ・ポスター美術館のコレクション数、コレクションの内容、美術館の活動等について調査していないので、ヴィラヌフ・ポスター美術館と比較できないが、双方の美術館が共通していることは、地域に密着しながら、常に、世界へ眼を向けた活動をしている、ということである。

1891年、今から丁度100年前、ロートレックが初めて『ムーラン・ルーージュ』のポスターを制作した。1890年～1900年は、近代ポスターの黄金期と呼ばれ、ロートレックの他に、シェレ、スタンラン、ミュシャ、ボナール、ピアズリー、グラッセ、ハーディ、ベガースタッフ兄弟などが活躍し、ポスターは大衆芸術として、市民から熱烈に歓迎された。今日でも、ポスター芸術は隆盛を極め、ポーランド、日本、ドイツ、フランス、スイス等の国々は独自のスタイルを確立し、互いに競い合っている。日本のポスターは、海外で高く評価され、美術館、博物館に数多くコレクションされている。しかし、日本では、ポスター専門の美術館がないし、公共の美術館でも、ポスターを収集・展示・保存・研究している所は、ほとんどない。そして、ポスターの研究者も少ない。富山県立近代美術館が、世界ポスタートリエンナーレを開催し、ポスターをコレクションしているが、ヴィラヌフ・ポスター美術館の多面的な活動に比べると、あらゆる面で遅れている。遅れは当然であり、富山県立近代美術館は、ポスターコレクションや活動を本格的に始めるために、別館の建設を考えている。また、東京・国立近代美術館もポスターコレクションを始め、そのための別館建設構想をあたためている。しかし、優れたキュレーター育成をどうするのか、重要な問題である。国

内では無理なので、研究水準のトップレベルである、ヴィラヌフ・ポスター美術館で研鑽を積むことが一番妥当であろう。ヴィラヌフ・ポスター美術館は、ポーランドポスターの発展に寄与したばかりでなく、ポスターの研究機関として、世界をリードしてきたのである。

#### 注

- (1) ワルシャワ国際ポスタービエンナーレの第1回から第13回までにおける日本の金賞受賞者は、次の通りである。

- 第1回 社会問題ポスター部門：田中博  
 コマーシャルポスター部門：永井一正  
 第2回 コマーシャルポスター部門：亀倉雄策  
 第4回 文化ポスター部門：福田繁雄  
 第5回 コマーシャルポスター部門：横尾忠則  
 第6回 コマーシャルポスター部門：中村誠  
 第7回 コマーシャルポスター部門：深山重樹  
 第9・10回 コマーシャルポスター部門：サイトウ・マコト  
 第11回 社会・イデオロギーポスター部門：秋山孝  
 第12回 イデオロギーポスター部門：松永真  
 コマーシャルポスター部門：青葉益輝  
 第13回 コマーシャルポスター部門：矢萩喜徳郎

#### 参考文献

- 1) 松浦昇：ポーランドポスターの研究(1)  
 ——ポーランドポスター史について——  
 金沢大学教育学部紀要40号，1991  
 2) Józef Mrosczak：Polnische Plakat Kunst. Econ-Verlag GmbH, 1962  
 3) Muzeum Narodowe w Warszawie：MUZEUM PLAKATU W WILANOWIE 1968—1988, 1988

#### 掲載写真

図1～8 筆者撮影